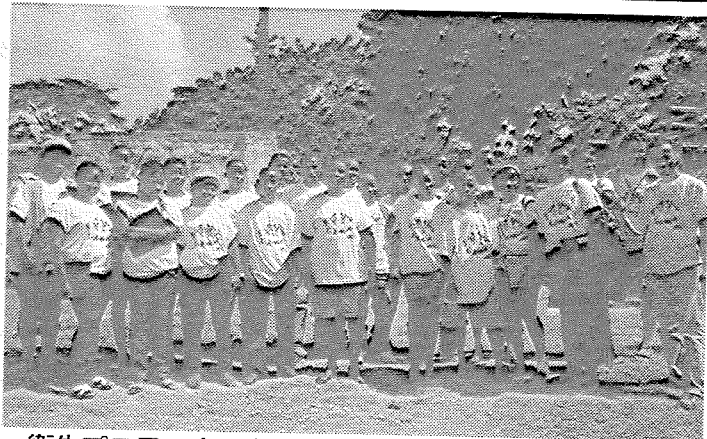


ハイチ地震から1年

— 2団体が支援活動を報告 —

2010年1月12日、ハイチ共和国を襲った大地震から1年——。コレラの流行や大統領選挙の混乱などで復興への道はまだ厳しい。新宗連と関係深い国際支援団体アムダ(AMDA)とジェン(JEN)が、それぞれハイチでの活動や現状、展望を報告した。



衛生プロモーターとして活躍する地元の人々とJENスタッフ

JENは地震発生から1年経過した今、あらためてハイチの将来を考えるために、都内で開催されるハイチアート展覧会への協力、ウェブサイトで呼びかけなど、多くの人がハイチの将来

特定非営利活動法人ジェン(JEN)、共同代表理事 吉岡健治、赤川恵一の両氏は、1月11日午後7時から、東京都渋谷区のJICA地球広場講堂でハイチ支援の活動報告会を行った。



木山事務局長



JENが配布したタンや木下用具でテントを建設した女性

を考えるきっかけを提供している。地震発生から1年後、1月11日に行われた活動報告会では、昨年11月に

現地を訪れた木山啓子事務局長が「ハイチの現在の課題、そして将来のハイチ」をテーマに報告した。

JENは昨年1月19日、緊急支援の経験が豊富でフランス語に堪能な国際スタッフを含む3人が現地入り、同月28日にさらに1人が加わり、初動調査とともに緊急支援活動を開始した。

第1期の支援活動として、支援がまったく入っていない、首都ポルト・フランスの西約50kmに位置するグランゴアブ地区で4700件を対象に緊急シエルター材料を配布。

第2期の支援活動として、住民自身が衛生プロモーターとして地域で活躍する衛生教育プログラムの80カ所の井戸周りの

今年に入って連日のようにテレビ報道、スポーツ紙、タブロイド夕刊紙等で、話題を集めている

AMDA

復興へ向け義肢支援

被災女性が来日、神戸も訪問



「外交官になりたい」と夢を語るガエルさんと通訳するフレデリック氏



義足を装着した患者らと八尾氏

特定非営利活動法人アムダ(AMDA)、菅波茂代表は1月20日午後2時から、東京・杉並の立

正校成会大聖ホールで「ハイチ活動報告会」を行った。

AMDAは、昨年1月12日に発生したハイチ大地震に際し、世界7カ国からAMDA多国籍医師

団を派遣し、緊急医療支援活動を行い、その後、ハイチ復興支援として、義肢支援活動を開始、現地に被災者に義足の提供

行った。また、「市民参加型人道支援外交、ハイチ大地震復興支援スポンサー親善交流事業」としてハイチ、ドミニカ共和国

日本の3カ国の青少年が相互理解を深めるため、サッカーの試合をドミニカで開催した。

現在、ハイチでは昨年10月から流行し続けているコレラに対し、医療支援のため、医師団を日本から派遣し、コレラ患者の診察活動、感染予防の啓発活動も行っている。

今回の報告会には、義肢支援活動により義足の提供を受けたハイチ女性のガエル・エズナールさん(18歳)とAMDA

「外交官になりたい」と夢を語るガエルさんと通訳するフレデリック氏

JEN

自立へのサポートを

現在の課題と将来を考える

改善にあたっている。

木山氏は、ハイチの現状を混乱が続く大統領選挙、コレラ被害の増加、援助団体への依存があることを指摘し、求められている支援は自立へのサポート、持続・発展可能な支援、ニーズに応えるなど、指摘した。

暗い日本に

斎藤佑樹くんと日本人

中野 翠著